

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	文化財保護推進事業			会計	款	項目	大	小
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課	図書・博物館			
施策	3-4	ながれやま市民文化の継承と醸成		主管課長	小栗 信一郎			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内の文化財と所蔵者文化財に関心を持つ市民	意図	市内の文化財の保護と活用のため。
事業内容	文化財の指定・登録・解除のための調査を行う。指定文化財の保護助成のため、補助金を交付する。文化財を広く紹介するため、文化財説明看板の設置や遺跡見学会等を実施する。埋蔵文化財保護と開発行為との調整を図るため試掘を実施する。文化財審議会を催し、文化財保護の方向性を諮る。			
事業開始から現在までの状況変化	平成20年度の機構改革により、生涯学習課文化財保護係に代わり博物館学芸係が担当している。市指定無形民俗文化財の継承のため補助金の交付をしてきた。指定文化財の経年変化や損壊に対応するため、平成22年度から指定文化財の修理補助金の交付を開始した。また平成24年度には、国・県指定文化財及び国登録文化財への補助事業を開始した。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	新たに指定登録された文化財数	3	1	1	件	→→
②	埋蔵文化財照会処理件数	1,603	1,608	1,695	件	→→	
③	指定・登録候補文化財の調査件数	4	4	6	件	↗↗	
④							
⑤							
⑥							

  

指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	13,650,696	13,711,869	13,783,311
事業費(b)(円)	4,420,696	3,277,469	2,843,251
うち一般財源	4,337,696	3,177,469	2,761,251
職員給与費(c)(円)	9,230,000	10,434,400	10,940,060
人役・職員(人)	1.00	1.20	1.29
人役・再任用(人)	1.00	1.00	0.98
人役・臨職(人)			0.07
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

・TX沿線整備事業の進捗に伴い、埋蔵文化財の照会処理件数は引き続き増加傾向にある。  
 ・文化財の整備・公開に向けた秋元家住宅土蔵・鱈ヶ崎三本松古塚碑の調査を実施した。  
 ・国登録及び市指定に向けた割烹新川・赤城神社正一位授与関係資料・間魔堂・清暑亭の調査を実施した。

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	国登録・市指定候補文化財の調査を適格に計画的に行い、文化財審議会に諮る。文化財の公開・普及に努める。	③取組における課題(Check)	指定文化財の整備・公開にあたり、関係課等との協議を進める。
②H30に実施した取組(Do)	市指定候補文化財の調査を行い、文化財審議会に諮った。新たに1件の国登録有形文化財の登録が実現した。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	市域全体を視野に入れ、偏りのない文化財の指定と保存・保護すべき文化財の適正な選定。